

教員名

森藤 ちひろ

企画名

吉野町コミュニティデザインプロジェクト



地域活性化型
自治体・国
住民組織



企画・活動概要

森藤ゼミは、マーケティングと消費者行動の理論を「人々の暮らしや人生を幸せにする道具」として捉え、それらを用いた消費者調査、新たなサービスの創造、ソーシャル・マーケティング(社会課題へのマーケティングの活用)の立案など実践的な学びの活動を行っています。森藤ゼミでは、2016年から奈良県吉野郡吉野町にて地域住民と共に地域活性化に向けた活動をさせて頂いています。桜で有名な吉野町ですが、これまでの調査で吉野町は若者に認知度が低いことが明らかになりました。

そこで、本企画では、吉野町が推進する「交流人口の増加」の一助となる方で、とりわけ若者が吉野町を知る機会を創出する方法を地域の方と一緒に探求することを目指しました。「民泊には関心があるが、実際には難しい」「何を行うにも人手が足りない」という地域のご意見からヒントを得て、お手伝いをするホームステイという宿泊スタイルを試験運用し、評価することにしました。

本事業は、学生の地域貢献と地域住民とのパートナーシップにより、まちの活性化や地域課題の解決を目指した活動を支援する「吉野町協働のまちづくり推進交付金事業頑張ってみよう学生部門」に採択され、「吉野でウルルンホームステイ」事業として吉野町からも支援を受けています。

経緯・背景・目的

本企画は2018年度「吉野町山口コミュニティデザインプロジェクト」の発展形であり、2019年1月に地域の方々と学生で実施したワークショップでの議論が基になっています。吉野町は少子高齢化・人口減少に直面し、移住定住につながる「交流人口の増加」に取り組んでいます。ワークショップでは、「若者が吉野を訪れるために何が必要か」というテーマで、学生が考えた提案に対して地域の方から意見を頂き、一緒に検討しました。



学生は、地域に溶け込み、吉野町の日常の暮らしを体験できる方法があれば、何度も訪れたい、あるいは住みたい場所になるのではないかと考えました。また、単発的に実施するワークショップだけでは、地域の方々とコミュニケーションが不足しており、より距離が近くなる場が必要ではないかと考えました。

取り組み課題

新たな宿泊形態として地域住民宅でのホームステイを提供するとしたら、どのような課題があるのかを明らかにするために、本学学生が宿泊者となってシミュレーションを行いました。本企画が取り組む課題は、①暮らしの中で吉野町民の方々と地域の魅力や課題を共有する ②ホームステイという宿泊スタイルの吉野町でのサービス提供の可能性を探る ことでした。ホームステイを提供する対象者は、学生だけでなく、地域をより身近に感じたい旅行者や移住検討者などを想定して検討しました。



本学(学生)の役割



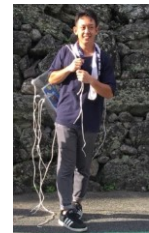
学生の役割は、吉野町の様々な地区のご協力者宅にホームステイをさせて頂き、日常の仕事を手伝い、生活を共にさせていただく中で、吉野町の暮らしの魅力と課題を発見すること、吉野町住民宅でのホームステイ実施の可能性の検証を行うことでした。

ホームステイ実施後は、各ホームステイ先での活動を報告書にまとめました。また、受入先の方々と宿泊者である学生にインタビュー調査とアンケート調査を行い、その結果の分析と考察を行いました。また、ホームステイを実施する場合には必要なルール、解決すべき課題とその解決策を提示しました。

活動結果・成果・学生が成長した点・学生が身につけた能力

学生13名は、2019年8月～10月の1泊2日もしくは2泊3日の期間、上市・山口・西谷・国栖の4地区7カ所の受入先にご協力をいただき、ホームステイを実施しました。お寺の夏祭りの準備やゲストハウスの管理人、古民家カフェや地域食堂の手伝い、森林セラピーロードの整備、吉野川清掃ボランティアなどに地域活動に参加させていただきました。また、地域の方々のお計らいで、吉野山観光や柿の葉寿司の試食、吉野杉の家、檜パウダー加工、和紙や割り箸づくりの現場の視察、薬膳料理の調理なども経験させていただきました。学生は、吉野という土地の魅力、人々が大切にされていることを肌で感じることができました。

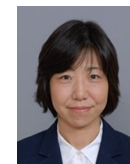
学生は、「吉野町には人々の間に家族のような繋がり、温かさ、ぬくもりがあった」「吉野町は自然に溢れ食材が充実している」「昼と夕方は全く違った景色を楽しめる」など吉野の魅力に気づき、ボランティアについては「人の為に何かをすることの大切さを知った」「対価を貰う時とは違う喜びや幸せが得られた」などと報告しています。また、ホームステイについては、「初対面でも最終的に家族のように思えるホームステイは不思議な力を持っている」と評価する一方で、「積極的に動くことが出来ず、受入先にご負担をかけた」「事前の情報共有や調整が非常に重要である」など、運営上の改善点を指摘しました。



指導教員および関係者の紹介

《ご協力先》

吉野町役場、吉野町社会福祉協議会、吉野上市移住定住促進支援センター、大師山寺、くす食堂、ゲストハウス三奇楼、木の子文庫、三茶屋おかあさん食堂、吉野シェア空、ホームステイご協力ご家庭の方々、吉野町地域住民の方々など
《森藤ゼミ3年生》
プロジェクトリーダー：柳生澤那 サブリーダー：北村愛佑美・道下智史
池田虎太郎・一柳美海・北川未羽・後藤翔・坂元美月・新中朱里・
福田健人・嶺みずき・村井真奈美・横山聖奈



《指導教員》
人間社会学部
人間社会学科
教授
森藤 ちひろ
専門
・マーケティング
・消費者行動